

令和7年度学校評価報告書

1 本年度の学校評価について

(1) 全体評価より

本年度の学校評価は、各項目について「4：当てはまる、3：どちらかといえば当てはまる、2：どちらかといえば当てはまらない、1：当てはまらない」の4点満点で評価を行い、保護者評価の全体平均は「3.64」、職員評価の全体平均は「3.63」と高評価になった。また、前年度比は、保護者対象が「+0.08」、職員対象も「+0.08」となり、保護者・職員ともに評価ポイントが上がった。

(2) 保護者評価より

保護者評価では、全体平均が「3.64」と高い評価を得た前年度の結果と比較して、平均が「3.4」以下の項目がなくなり、ほとんどの項目で評価ポイントが上がった。特に、前年度の平均が「3.4」より低かった「項目7：地域との関わりづくりについて（3.37）」が「+0.16」と評価ポイントが上がり、「3.53」となった。また、「項目5：職員研修の充実について（3.41）」も「+0.19」で「3.6」となった。

改善の要因としては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行して2年が経過し、これまで中止や規模を縮小してきた地域との交流行事を徐々に再開したり、新たに実施したりするなど、地域の方々や外部講師の方々の協力を得て年々活動が充実してきたことと、学校だよりや学部だより等で様々な活動や職員研修の様子を保護者に周知してきたためと考えられる。

(3) 職員評価より

職員評価でも全体平均が「3.63」と高い評価を得た。前年度の結果で平均が「3.4」より低かった「項目4：教育目標等の保護者への説明について（3.25）」が「+0.28」で「3.53」に、「項目11：職員研修の充実について（3.39）」が「+0.37」で「3.77」に、評価ポイントが上がった。

改善の要因として、項目4については、学校教育目標や指導方針等を構造化してグランドデザインとして示したり、ホームページの内容を更新したりしたことなどが考えられる。項目11については、項目内容を具体化してアンケートを取ったことや、昨年度の反省から教科等部会で指導事例や教材の紹介をするなど、研修内容を検討して取り組んできたことが考えられる。

一方、本年度も平均が「3.4」より低い結果となったのは、「項目12：学部を超えた学び合いの充実と教職員間の連携について（前年度3.12、今年度3.2）」で、前年度より若干伸びてはいるが依然課題であるといえる。

(4) 改善策

職員評価で低かった「項目12：学部を超えた学び合いの充実と教職員間の連携について」の改善を図るために、以下のように取り組んでいく。

本校は、小学部・中学部・高等部・名取が丘校と、三学部と一つの分校に分かれて教育活動を行っている。それぞれの学部や分校の特色を生かした教育課程を展開しながらも、小学部と名取が丘校の横のつながりと、小・中・高の縦の系統性も考慮していく必要がある。そのため、学校課題や教職員のニーズに応じた研修や、教科等部会などをより充実させ、職員間の情報の共有や共通理解を図る機会や場を設け、さらに連携を図っていく。

2 その他

(1) 集計方法の工夫

前年度に引き続き、本年度も保護者、職員ともにGoogleフォームによる調査回答を実施した（紙面での回答を希望する保護者には回答用紙を配付）。一昨年度より現在の回答方法で実施するようになり、Googleフォームでの回答が定着してきたことや、メール配信システムを活用した呼び掛けの実施など、回答への呼び掛けを工夫・改善してきたことで、回答率が上昇した。（令和5年度53.9%→令和6年度72.9%→本年度91.0%）。

(2) 次年度に向けて

校内学校評価全体会での学校評価・反省を踏まえ、次年度の重点努力目標案を立て、その具現化に向けて取り組んでいく。